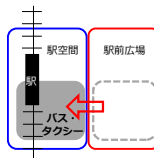


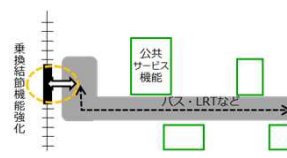
①6 廿日市 市役所前駅

駅まち再構築
のポイント

【F】



【J】



● 駅まち再構築のポイント

課題 駅のアクセス利便性が低く周辺市街地の活力が停滞

- 中心市街地に公益的施設が集約される動きがある中、基幹的な公共交通である路線バスの利便性が悪い

解決策 【F】 交通機能を駅空間に移転

- 路面電車と路線バスの乗り場を一体的に整備しシームレスな乗換を実現

解決策 【J】 公共交通路線沿いに公共サービス機能を集約

- 交通結節機能の強化と、駅と周辺市街地をつなぐシンボルロード沿いに公共的な施設を再配置

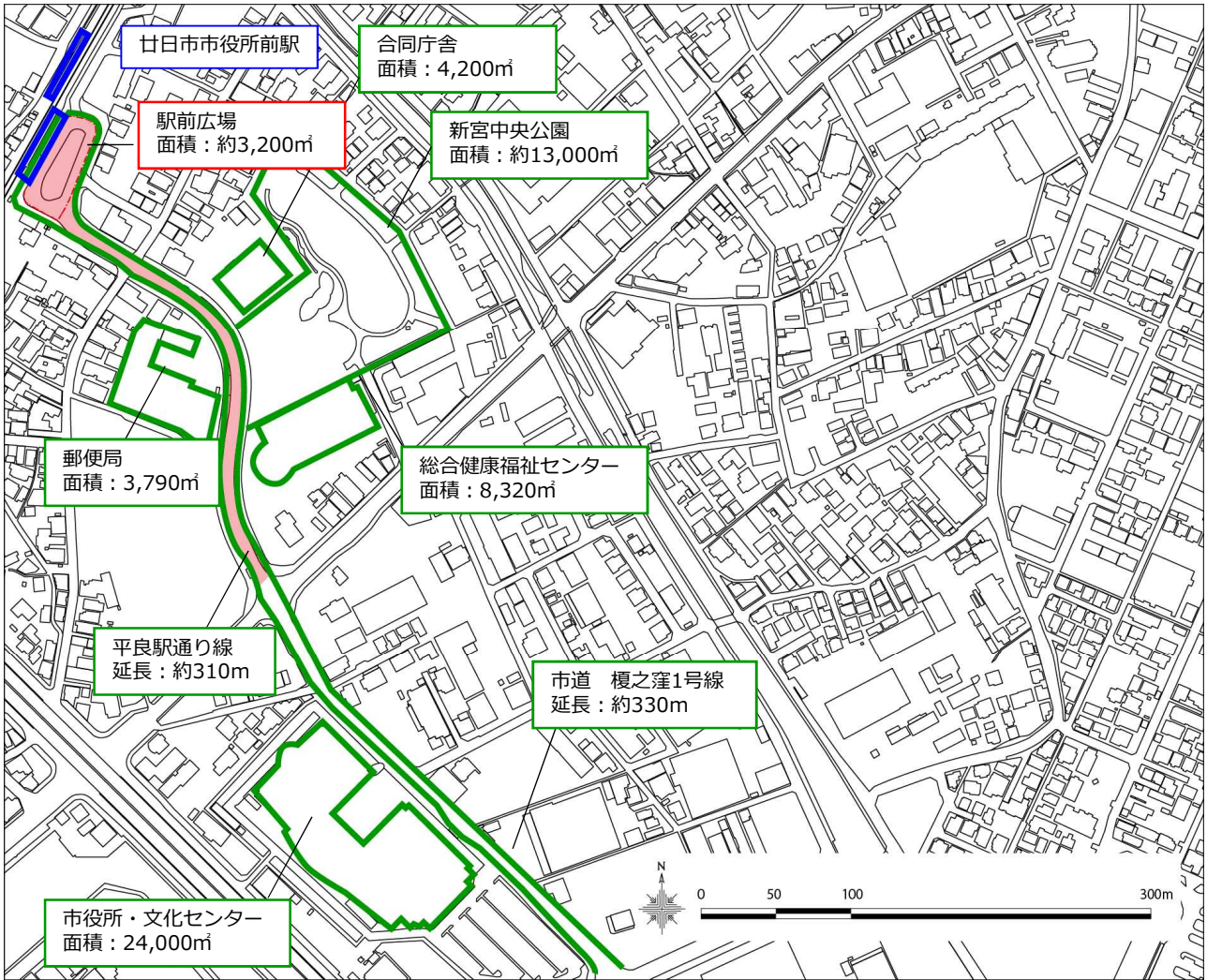


出典：廿日市市シビックコア地区整備計画

● 「空間の共有」と「機能の連携イメージ」

機能	空間	駅まち空間				周辺市街地
		駅空間		駅前空間		
		改札内	改札外	駅前広場	駅広隣接地区	
交通空間	乗降機能 交通結節機能	バリアフリーに利用できる 路面電車・バス乗降空間		結節	シンボルロード（駅とまちをつなぐ）	
	交流機能 防災機能			駅からつながるシンボルロード沿いに 公共施設を再配置する		都市計画公園
環境空間	都市環境 形成機能					ふれあい通り 植栽
	サービス機能					市役所 文化センター 合同庁舎

● 駅周辺地図



出典：国土地理院 基盤地図情報

凡例 (✓がついているものが該当)

駅前空間	駅空間
✓ 駅前広場等 (都市計画決定区域)	✓ 駅施設 (駅ビル含む)
駅前広場等 (都市計画決定なし)	改札内空間
歩行者デッキ	駅前広場・駅広隣接地区へ拡張した範囲
駅広隣接地区・駅空間へ拡張した範囲	周辺市街地
駅広隣接地区 (連携し整備した地区)	✓ サービス機能・シンボルロード等
	建物内に設置されたサービス機能

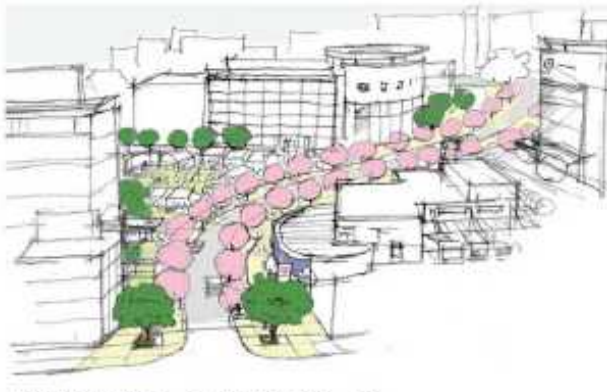
● 基礎情報

所在地	広島県廿日市市	自治体人口	11.7万人 (2020年1月1日)
乗り入れ路線	1線 ・広島電鉄 宮島線	乗降客数	3,308人/日 (2017年度)

● 駅まち再構築の実現における工夫

■ シビックコア地区計画に基づき、駅と周辺市街地をつなぐシンボルロード沿いに公益的施設を再配置した

- 平成5年に国土交通省が創設した「シビックコア地区整備制度」により、関連都市整備事業との整合性を図りながら、官公庁施設の集中配置と民間建築物等の整備を総合的にすすめることで、拠点地区の整備を目指した。
- シンボルロードを整備し、公共施設等を主体に、道路空間・公園・敷地内空地等を一体的に配置した。
- 公共空間の景観整備、沿道建築物のセットバック・用途の誘導等による「都市軸」にふさわしい沿道の魅力づくりを行った。



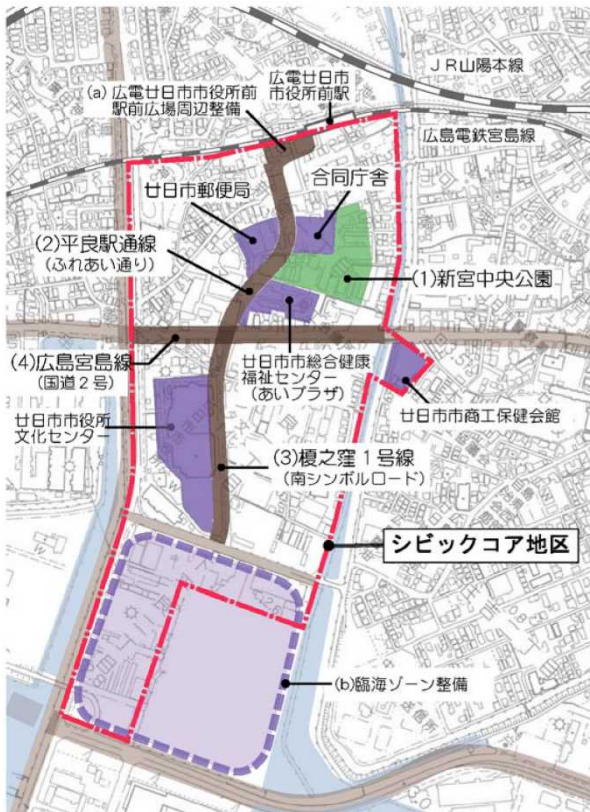
●国道2号北ゾーンの空間イメージ



●ふれあい通り沿道の活用（廿日市）

出典：廿日市市シビックコア地区整備計画

事業の概要



都市計画道路整備事業	
整備内容	シンボルロード 平良駅通線・榎之窪1号線／広島宮島線
整備主体	廿日市市／広島県
管理主体	廿日市市／広島県

都市計画公園・市施設整備事業	
整備内容	新宮中央公園（防災機能向上） 総合健康福祉センター、商工保健会館、 市役所、文化センター
整備主体	廿日市市
管理主体	廿日市市

廿日市地方合同庁舎整備事業	
整備内容	地方合同庁舎・税務署・ 労働基準監督署
整備主体	国土交通省
管理主体	国土交通省

● 駅まち再構築の実現における工夫

■ バスと路面電車のシームレスな乗換を実現し、バリアフリーに配慮して交通結節機能を強化した

- 交通結節点機能強化のため、駅前広場を整備する街路事業と並行して、まちづくり総合支援事業による駅周辺の施設整備を行うとともに、第3セクターである(株)広島バスセンターが幹線鉄道等活性化事業の乗継円滑化工事に着手した。
- 事業の組み合わせにより、駅前広場前への鉄道ホームの移転、バス停上家とホーム上家の一体化などを行うことが可能となった。
- 街路事業と併せて整備を行ったことで、駅前までのバスの乗り入れが可能となり、駅周辺のバリアフリー化やシームレスな乗換によって快適性・利便性が向上した。
- 鉄道からバスへの乗り換え時間は9分から1分未満へ短縮され、鉄道利用者は約24.3%増加した。(2005年→2007年)

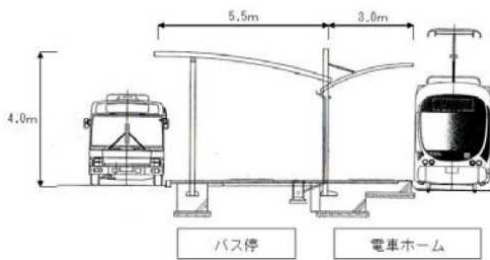


図 平良駅（現廿日市市役所前駅）周辺の交通環境の変化

出典：国土交通省中国地方整備局建政部 整備事業事例集

事業の概要

鉄道等活性化事業（乗継円滑化）	
整備内容	路面電車とバス停の一体化
整備主体	株式会社 広島バスセンター
管理主体	広島電鉄

交通結節点改善事業	
整備内容	駅前広場
整備主体	廿日市市
管理主体	廿日市市

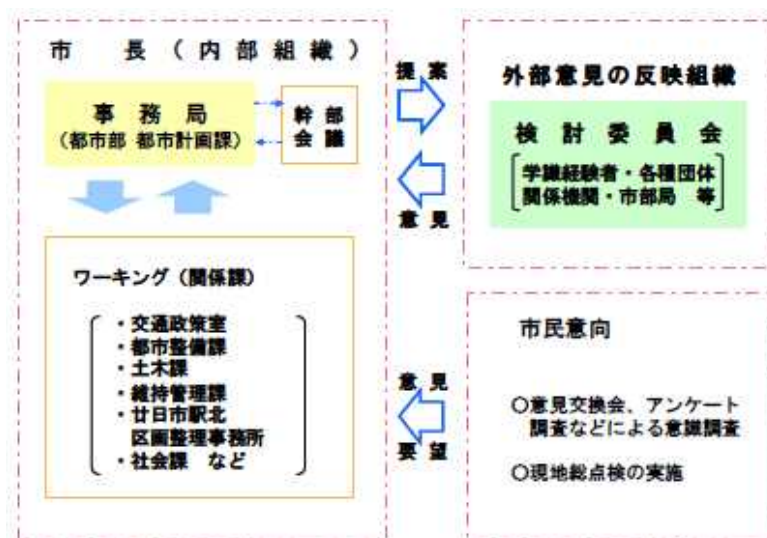
● 駅まち再構築の経緯

- 国や市などの公共施設と民間施設、関連都市整備事業が連携し、さらに一体的なタウンセンターゾーンの形成を図っていく重点地区としてシビックコア地区を設定した。
- 2004年に廿日市市移動円滑化基本構想を策定し、JR宮内串戸駅周辺地区を「優先的に事業者と連携し、最も計画的にバリアフリー化を図る地区」として移動円滑化に係る重点整備地区に設定した。
- 広島電鉄の廿日市市役所前駅（平良駅）は特定旅客施設として位置づけられないものの、JR宮内串戸駅に近接していることから、廿日市市のバリアフリー化を実現する交通結節点として、相互に連携を図りながら積極的にバリアフリー化を進める手法を検討することとした。
- 交通結節点の機能強化のために交通広場を整備する街路事業と並行して、まちづくり総合支援事業による駅周辺の施設整備を行うとともに、第3セクターである(株)広島バスセンターが幹線鉄道等活性化事業の乗継円滑化工事に着手し、バスと広島電鉄のシームレスな乗継を実現することとなった。
- 廿日市市移動円滑化基本構想の策定にあたって、2002年に学識経験者・公共交通事業者・市内の老人クラブや身体障害者団体の代表者などにより構成される廿日市市移動円滑化基本構想検討委員会を設置した。
- 高齢者、身体障害者など市民の意向を反映するため、「意見交換会」を行って市民の意向を調査した。

経緯

	1997	2001	2004	2006	2010	2012	2018
上位計画	都市マスタープラン			廿日市市シビックコア地区整備計画 移動円滑化基本構想計画		廿日市地区都市再生整備計画	マスタープラン改訂 立地適正化計画
都市計画	新宮中央公園 平良駅通線 都市計画決定						
事業	市役所・文化センター	健康福祉センター 商工保健会館	平良駅通線 駅前広場 (乗換バリアフリー化)	地方合同庁舎		国道2号	
全体調整						廿日市市公共交通協議会	廿日市地区まちづくり協議会

体制



■廿日市市移動円滑化基本構想の策定体制

出典：廿日市市移動円滑化基本構想

● 上位計画

■ 廿日市市都市計画マスタープラン（2018）

地域別構想（東部南地域）において、廿日市市役所前駅周辺を含む地域は都市拠点（高次都市機能集積化）とされており、以下の方針が定められている。

1 東部南地域

● 整備の目標
『質の高い多彩な都市サービスを供給する賑わいのある都市拠点、快適で利便性の高いまちなか居住のまち』

● 整備の基本方向

- ◆ 多様な機能が集積した活力と魅力ある都市拠点地区の形成
- ◆ 木材港の新たな産業拠点としての再生
- ◆ 快適で利便性の高い都心居住の推進
- ◆ 良好な住環境の形成
- ◆ 災害に強いまちづくり
- ◆ 高齢者、障がい者、子育て世帯等が暮らしやすいまちづくり



凡 例					
	専用住宅地（低層を主体とした良好な住宅地を形成する市街地）		自動車専用道路（既設）		JR山陽本線
	専用住宅地（中高層を主体とした良好な住宅地を形成する市街地）		自動車専用道路（計画）		広電宮島線
	複合市街地（住宅系を主体とした複合市街地）		主要幹線道路（既設）		主な公園・緑地
	複合市街地（商業・業務系を主体とした複合市街地）		主要幹線道路（事業中）		都市施設
	複合市街地（工業系を主体とした複合市街地）		主要幹線道路（計画）		主な河川
	商業・業務地		幹線道路（既設）		地域界
	工業地		幹線道路（事業中）		
			幹線道路（計画）		

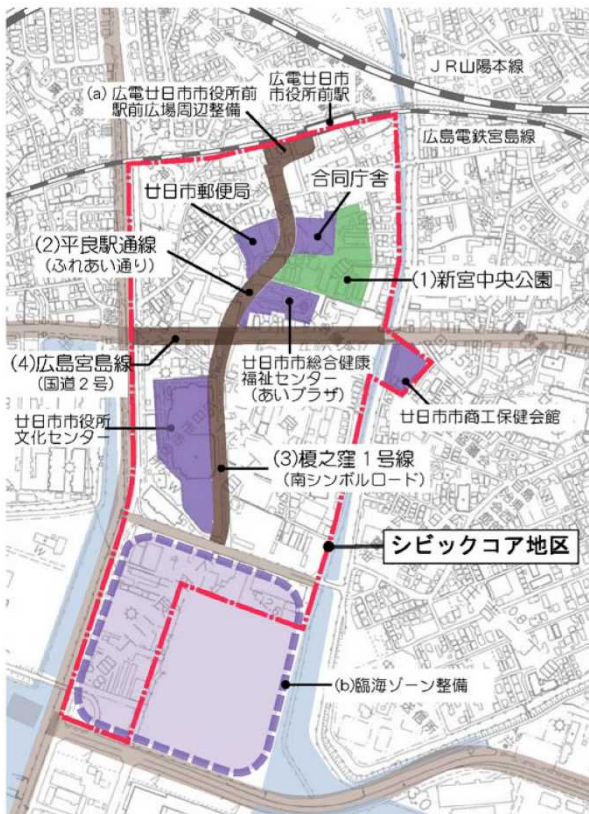
コラム 上位計画を踏まえて周辺市街地との連携を推進

- 廿日市市においては、国と地方とのパートナーシップによって、地域の特色や創意工夫を生かした街づくりを支援する制度である「シビックコア地区計画」を策定している。
- シンボルとなる新しい都心、広域サービス都市づくりを目指して整備の次のような基本方針を定めている。

- 官公庁施設の集積強化による広域行政拠点の形成
- 官公庁施設の集約立地を契機とする民間施設等の立地促進
- 官公庁施設・民間施設の連携による一体的なまちづくりの推進
- 地域特性を活かしたシンボル空間の形成



- 官公庁施設と民間施設の整備を相互に連携をとりながら一体的に推進し、拠点地区にふさわしい都市機能の集積を高めるとともに、利用者の利便性の向上を図っている。



新宮中央公園の整備イメージ
良好な都市環境の形成・防災機能の強化を目的に整備された

出典：廿日市市シビックコア地区整備計画

